

そけい 鼠径ヘルニア

日本全体で年間15万人程度の方が鼠径ヘルニアの手術を受けていると推測されます。

鼠径ヘルニアになりやすいのは中高年の男性です。さらに、力仕事や立ち仕事が多く、喫煙し、肥満気味で便秘の人が鼠径ヘルニアの危険因子になります。

鼠径ヘルニアには、外鼠径ヘルニア・内鼠径ヘルニア・大腿ヘルニアの3種類がありますが、男女とも外鼠径ヘルニアが一番多く、その次に男性では内鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアの順で、女性は大腿ヘルニア、内鼠径ヘルニアの順になります。

がいそけい 外鼠径ヘルニア

男性の場合、精巣は胎生期にお腹の中で作られるのですが、産まれてくるまでの間に、鼠径管という道を下って陰囊の中に収まります。鼠径管は通常、産まれてくる過程で閉鎖します。これが閉じずに残るとそこを通過して腸が陰囊に出てくるのが小児の外鼠径ヘルニアです。一方、成人の外鼠径ヘルニアは、閉じたはずの鼠径管が、腹圧に押されて再び開いてしまうことが原因で発症します。鼠径管は女性にもありますが、靭帯が1本通るのみなので、精巣が通る男性の方がもとの管の径が太いので、外鼠径ヘルニアは圧倒的に男性に多く発症します。

ないそけい 内鼠径ヘルニア

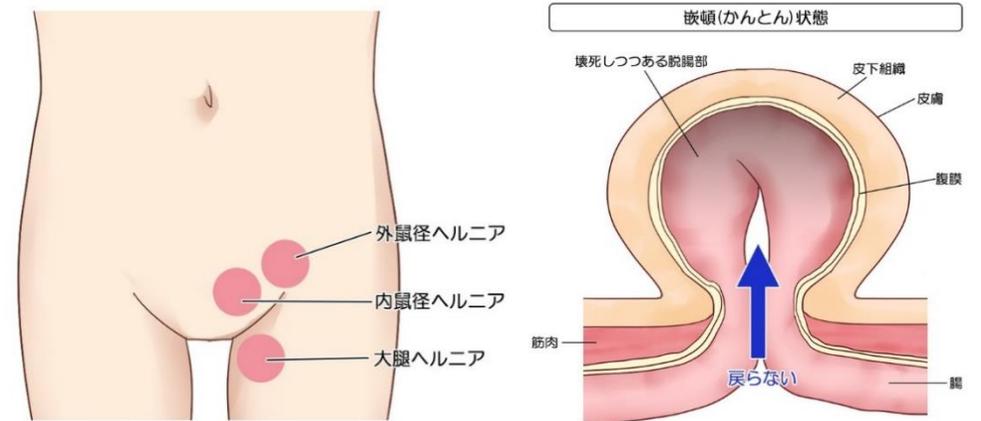
内鼠径ヘルニアは外鼠径ヘルニアのように管を通過して腸が脱出するのではなく、もともと構造的に筋肉が弱い場所が原因となります。鼠径三角という場所で、腹直筋の一番下の外側の部分です。弱い部分の筋肉が加齢に伴いさらに薄くなったり、お腹が出てこれによる腹圧がかかると、腹壁を貫いて腸が飛び出てきます。

だいたい 大腿ヘルニア

腹と足は鼠径靭帯で分けられます。足の血管は大腿管という道を通して腹から足へ出ますが、大腿ヘルニアは、この大腿管を通して腸が大腿部へ脱出します。内・外鼠径ヘルニアは鼠径靭帯の内側に出るのと違って大腿ヘルニアは鼠径靭帯の外に脱出するのが特徴です。

症状

鼠径ヘルニアの典型的な症状は、「鼠径部が立って膨らむ、寝て凹む」です。嵌頓かんどんといって飛び出した内臓が戻らなくなり血の流れが悪くなると最悪の場合腸が壊死することもあり危険です。この場合はかなり強い痛みを伴い、おなか全体が痛くなったり吐いたりすることもあります。



治療

治療は飛び出した臓器をおなかの中へ戻し、その穴を塞ぐ必要があります。従来は筋肉を縫い合わせて治す方法が主流でしたが、再発が多く痛みも強いいため現在では腹腔鏡下にて化学繊維のメッシュを用いて穴を塞ぐ方法が主流となりました。

